

宮崎県立飯野高等学校

令和5年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」報告書



【宮崎県立飯野高等学校】地域社会学科（令和8年度設置（予定））

地域社会学科設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要

本校の所在地である宮崎県えびの市でも地域社会が直面する様々な課題の解決を図るため、高校と地域との協働による新時代の人材育成に向けた新たな高校づくりが必須である。グローバルな複眼の視点で地域課題を俯瞰・分析し解決に向けてアクションを起こす人材を育成するため、創造的なカリキュラムにより以下を実現する学科の設置を目指す。

- ①次世代に必要な力を地域と共育する学びへの転換
- ②画一的な普通科の在り方を見直し、共学・共育により教育マインドの転換
- ③地域社会の様々な分野におけるリーダーを育成する地域創生の拠点を形成

令和5年度の目標

- ①新学校設定科目のプレ実施と検証
- ②コーディネーターの増員、配置による効果検証
- ③共創パートナーとの連携
- ④新学科における学びのあり方の研究

取組状況



高校を核とした地域社会全体で「共創」する人材の育成

目次

1. 事業推進に向けた取り組み	
(1)事業実施日程	1
(2)運営指導委員会	2
(3) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制	3
①飯野高等学校を守り育てる市民の会	3
②魅力化コアチーム委員会	4
③事務局	6
④新学科の設置及び設置に向けた検討状況・関係者への説明の実施状況	6
2 研究開発	
(1)地域社会学科の具体的な枠組みの検討	8
①現行の普通科と同じように2年次での選択とする場合の検討	8
②カリキュラム全体の見直し	9
③学びの往還に向けた職員研修	10
(2)新探究科目の開発実践	14
①新たな探究の学校設定科目グローバル共創探究（仮称）の開設に向けての試行	14
②超探究の日の実践	16
③越境プログラムの構築に向けた外部との連携	20
④アウトプットする機会の創出	22
⑤今年度のプロジェクト事例	24
⑥地域社会学科設置による他学科への波及効果の具体例	28
(3)企業との意見交換・協議	32
(4)連携機関・団体との意見交換・協議	32
(5)地域・教育魅力化コーディネーターの配置	33
3 生徒アンケート結果	37
4 視察・事業の普及	41

1. 事業推進に向けた取り組み

(1)事業実施日程

事業項目	実施日程（令和5年4月1日～令和6年3月31日）											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カリキュラムや教育方法等の検討・開発・実施												
カリキュラム開発研修		●				●		●				
超探究の日の実践			●	●				●			●	
中高連携事業の実践						●		●				
市との連携事業			●				●	●	●			
関係機関との連携協力体制の構築・維持												
運営指導委員会				●								●
コアチーム委員会				●					●			
連携企業との協議							●					
先進校視察			●							●		
コーディネーター												
コーディネーター（竹本氏）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コーディネーター（武井氏）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
新学科設置に向けた管理機関との協議												
普通科改変検討会議									●			
成果発表・成果普及												
事例発表					●	●		●				
視察受入	●	●		●			●	●	●	●	●	●
連携高校との交流会					●				●	●		
グローバル学習成果発表会										●		
全国グローバルリーダーズサミット										●		
校外コンテスト等での発表					●						●	
成果検証												
高校魅力化評価システム						●				●		●

(2)運営指導委員会

第1回 令和5年7月20日(木) 午前10時～午前11時30分
第2回 令和6年3月18日(月) 午前10時～午前11時30分
会場：飯野高等学校 校長室

運営指導委員			
えびの電子工業株式会社社長		津曲洋一	
明石酒造株式会社社長		明石秀人	
宮崎国際大学副学長		矢野健二	
株式会社アイロード社長		福永栄子	
宮崎大学特別教員		中山隆	
指定校			
校長	光神省三	教頭	長谷川千津
事務長	小玉雅一	指導教諭	梅北瑞輝
管理機関			
宮崎県教育庁高校教育課 課長補佐		忠平充司	
宮崎県教育庁高校教育課 副主幹		岩崎晃裕	
宮崎県教育庁高校教育課 指導主事		守永亮二郎	

概要
本事業の円滑な運営を図るため、昨年度までの成果と課題を踏まえながら本年度の取組計画、実施内容等説明を行なった。その後、各委員の様々な立場の視点から新たな普通科のあり方(地域社会学科)について指導、助言をもらった。概要は以下のとおりであるが今年度の振り返りをするとともに最終年度にむけた貴重な機会となった。
委員からの指導・助言
<ul style="list-style-type: none">・一度地域を出た生徒が帰ってきても学ぶマインドを作る・飯野高校がこれまで培ってきたことを考えれば他校との差はあるが、イメージとしてはどこも取り組み始めている・子供達の何をしたいのかを実現するには、ローカルでは収まりきれないはず・ICTの活用。DXを進めながら活用する・基盤は出来上がっている、あとはカリキュラム開発が使命・必要な力とは何かを明確に示して、そのために何をするかを明らかにしてほしい・カリキュラムが変わらないと学校は変わらない・各教科との往還(学びの方法、思考)・他者との協働が当たり前のように重要(分けていくことがいい、3学科を混ぜる)

- ・カリキュラムが大事（〇〇好きの提供はかなり重要な要素）
- ・“仕事”に対してポジティブに見えている印象
- ・自然発生的に生徒たちが活動できている
- ・コーディネーターの必要な要素（仕事をポジティブに見れるか、子供達に関われると入ってきたコーディネーターは苦しむ、仕事を分散できるのは、大きい）

(3) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制

本事業においては、以下の①～③の組織を柱に連携・協力体制をつくっている。構築にあたっては、関係機関や地域の事業主などを①、②の構成員に入れ円滑に整備が進むようにした。また、体制構築後の事業推進の要として新たにコーディネーターを設置した。

①飯野高等学校を守り育てる市民の会

日時 令和5年7月10日（月）午前10時～午前11時30分
会場 飯野高等学校 大会議室

本校支援のための地域を中心としたコンソーシアムで、えびの市長を会長に地元の行政、事業者、団体、関係機関から構成されている。地域のネットワークの中核となる団体や人材が集う組織となっていることから、事業内容（カリキュラム内容）に関する提案等を行い、事業への協力要請を行うことができた。特に、コーディネーターの持続的な配置や本校支援事業について本事業が円滑に進んでいくよう確認がなされた。

コンソーシアムの構成員

所属	氏名	主な実績
えびの市	市長 村岡 隆明	R1～3 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業コンソーシアムの構成員
えびの市議会	議長 竹中 雪宏	
飯野高等学校同窓会	会長 宮浦 佳紀	
えびの市教育委員会	教育長 永山 新一	
えびの市自治会連合会	会長 平岡 哲朗	
えびの市農業協同組合	組合長 小吹 敏博	R4 年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」コンソーシアムの構成員
えびの市商工会	会長 白石 昌彦	
えびの市観光協会	会長 福元 英雄	
えびの市地域婦人連絡協議会	会長 上原 聖	
えびの市子ども育成連絡協議会	会長 築地 雅之	
えびの市スポーツ協会	会長 赤川 一郎	
えびの市社会福祉協議会	会長 瀬戸崎恵子	
えびの市民生委員児童委員協議会	会長 上野 憲昭	
えびの市教育・保育施設園長会	代表 友清 潤	
えびの市青少年育成市民会議	会長 村岡 隆明	

えびの市高齢者クラブ連合会	会 長 木野 幸典	
飯野高等学校 P T A	会 長 内村 直樹	
えびの市中学校校長会	会 長 日高 康州	
宮崎県議会	議 員 中野 一則	
えびの市 P T A 連絡協議会	副会長 中野 岳則	

②魅力化コアチーム委員会

飯野高等学校を守り育てる会（コンソーシアム）内に置き、高等学校教員、コーディネーター、地元事業者等で構成する。学校設定科目の「共創」のカリキュラム開発の中心になる組織とする。

委員		
飯野高等学校魅力化校内推進委員会	指導教諭 梅北 瑞輝	R1～3 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 コンソーシアムの構成員
VoiceGift Lilybell 代表	代表 遠目塚 文美	
えびの市青年会議所	理事長 大門 哲也	
明石酒造株式会社	常務 明石 太暢	R4 年度「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」コンソーシアムの構成員
N P O 法人ニシモロベース	代表理事 上水流 秀明	
P A C H A M A M A	代表 鈴木 尚洋	
えびの市企画課	課長 黒松 裕貴	
H A N N A H	代表 村上 大輔	
(株) B E B U Y A	代表 坂元一貴	
株式会社 BRIDGE the gap.	代表取締役 青野雄介	

会および開催日	内容
第 1 回魅力化コアチーム委員会 10 月 19 日（水）	<p>新学科について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな学科が増えるイメージなのか。 ・新学科の地域への浸透をいかにするのか。 ・学校のイメージで、やはり子供は選択する。 ・e スポーツなど単純にそれだけで選ぶ現状。子供たちの価値観を再考する。 ・例えば大学の先生が来て、地域の需要があるのであれば、うまく行くきっかけになるかもしれない。ただ、そこがないまま、地域活動することが新学科の需要だと言われても、おそらく保護者は、それが自分の子に将来にどう関わってくるのかなかなか見えづらい。その辺りまで準備すれば、多分逆ですご突き抜けた新学科になる気がする。 ・中学校の先生へのアプローチが必要ではないか。 ・外から留学生、国外からの留学など多様な人が学ぶ高校。
第 2 回魅力化コ	学びについて

<p>アチーム委員会 12月18日（月）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語が話せないから海外へではなく、先にその必要という意識を持つための探究や教科学習が必要 ・留学も英語を話すためにが必要だと思うが、本質はそこではない部分には実は価値があるよということが大事。 ・物事を俯瞰してみる機会、課題に対して本気で悩む機会が必要なのでは？ ・身近な世界で完結している感じがする。枠を飛び出して、自分を全然違う世界でこう客観的に見る機会があるといいのでは？ ・取り組みの温度差によって下を引き上げるために、上の人たちが多少物足りなさを感じるのではないか。部活みたいに取り組む枠を設けてはどうか？ ・活動の自由と予算の自由。その辺りが突き抜けると非常に成果を出し安いのではないかなと。予算がなければ、ボランティアしかないみたいな制約が出てしまう。 ・イラストレーターを使ったりとか、フォトショップ使ったり、youtubeを進めているわけではないが、技術とかクリエイティブな知識は必要。 ・例えば映像を作る人とか、が近くにいるのであれば、カメラのことから教え、テロップの作り方、冊子が作れるのであればチラシを作る、そういう部活があってもいいのではないか。 <ul style="list-style-type: none"> ・例えば新学科で頑張っってプロジェクトに取り組む生徒が部に頼む取り組みとかどうか。部員であれば、すごい得意分野があってそれに憧れた後輩たちが「ああいう映像を作りたい」、「学校のPR チラシも担当して作る」、それも学びになるのでは？それがプロジェクトともリンクすれば面白いことになるのでは？ ・例えば今回のクラウドファンディングは、学校をちょっと飛び抜けている。そこに関わる保護者は、関わってくれた。しかも、メンバーの保護者だけでなく、1年生の留学生の保護者もいらっしまったので、部活を応援しようみたいな感じで、飯野高校を応援しようという雰囲気を作る発信をすることが大事なのでは？ <p>以上、取り組んでいる事業をさらに深化させる様々な視点からの意見・助言があったことが今後につながる機会となった。</p>
------------------------------	---

③事務局

事務局では、事業における研究開発全般のマネジメントを担う組織として教員およびコーディネーターで毎週のミーティングを行った。新学科、新科目開設に向けた今年度版の学びの設計書を完成に向けて、アンケート調査の実施・分析、各種取組の原案提示、事業全般の企画調整、関係機関との連携調整、予算の執行等を行った。

ミーティング内容
学びの往還に向けた職員研修の企画・運営 ・各教科会で身につけたい力につながる実践を考える ・教科横断で探究を柱にした学びのあり方考える
新科目のカリキュラムについて ・これまでの生徒たちの探究活動の取組において ・自由と保障(何度やってもいい、失敗してもいいというマインド) ・リソース(地域も)、文化、資金・インフラ・人 ・新たな価値づくり、アントレプレナーシップ教育 ・これまでの取り組み、プログラムを体系化した整理
コーディネーターの配置および活動内容
配置については、年度当初から2名のコーディネーターの配置となった。以下は、今年度のコーディネーターの活動内容である。 ・カリキュラム開発に係るコンテンツの設計 ・共創サポーター、地域との調整 ・魅力化コアチーム委員会の運営 ・探究活動の支援 ・広報活動

④新学科の設置及び設置に向けた検討状況・関係者への説明および意見

現在検討している学科構成の変更案について

- ・調査した全員が賛成
- ・名称よりもこれまでの普通科以上に探究をするのか？
- ・「普通科じゃなくなる？」という疑問も出てくる。しっかりイメージを伝えることが大事。
- ・進学をはじめ実績を積み上げること
- ・夢を語れる。夢を語っても笑われない、夢をイメージできる学科であってほしい
- ・行動ができる。現状に満足せず未来を創る
- ・新たな案には大賛成だが、イメージが伝わるのが大事
- ・ここで何ができるのか、できるようになるのか保護者に伝わるのが大事
- ・偏差値や教科の力だけではない社会で生き抜くための学びが必要
- ・高校でギャップを感じてドロップアウトする子もいるのでコース選択できるのは良い

- ・保護者の意見はやはり強い。保護者の意識変革が必要
- ・今の飯野高校の取り組みはすごいと感じているからこそ保護者が行かせたい学校へ
- ・その名称になる方が良い
- ・えびのの子たち、よその子たちに分かる名称
- ・地域との協働、その先まで考えることが必要。そこに魅力が作れるのでは
- ・子供達は好きになれば自分で学び出すのでそこを創る

飯野高校に求められていること

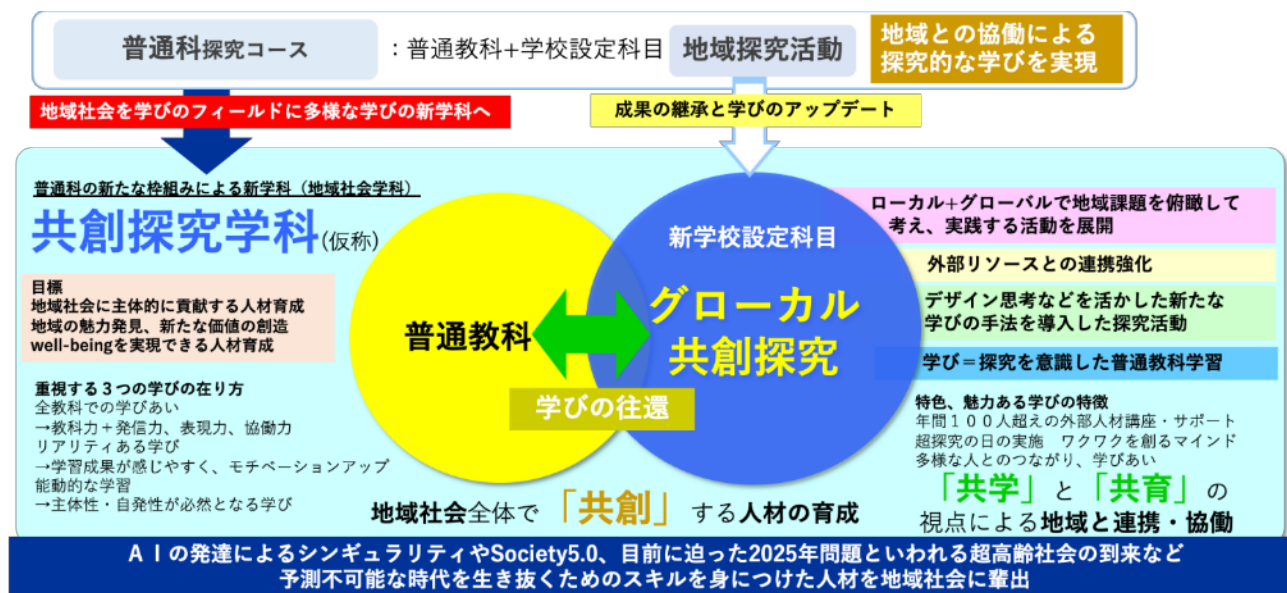
- ・進学への期待
- ・生徒の企画・案内を見ていると、社会で活かせると感じる
- ・生徒たちが取り組んでいることを続けてほしい。悪いと聞いたことがない。
- ・どんな職業でも役立つ高校生活
- ・徹底的に尖った学科にしていくのもあり
- ・未来の地域リーダーとなる学生の育成
- ・社会への貢献
- ・高校生がどんどん行動できる環境を創る
- ・何にチャレンジしても許される
- ・“遊び”からの創発
- ・大学入試は総合型や学校推薦に強い
- ・進学校（高校）への進学がゴールになっているケースを聞くが、そうではないことを保護者に伝えること
- ・子供達の好きを創る高校
- ・受験のための勉強ではない飯野高。

地元の中학생が残る学校として

- ・ふじ坂の看板で PR
(守り育てる会、PTA などが協力して作ればどうか？実績や今回の普通科改革についても)
- ・高校はまだまだ学力でのイメージが先行しているように思う
- ・親のイメージを変える必要あり
- ・飯野高での学びが将来のイメージと結びつくことで改善が図られるかも
- ・市内の高校生がえびのと小林を行き来できるシステム※交通手段
- ・他校の学生との積極的な交流
- ・全国、世界とのネットワーク
- ・さらに魅力ある高校へ
- ・自宅から通学できる環境が一番良いというイメージ
- ・他地域の子たちが増えれば一つの魅力になるのでは
- ・広報活動の強化。学校だけでやるのではなく広告塔となる関係者を増やす

2 研究開発

(1)地域社会学科の具体的な枠組みの検討



地域社会学科の設置に向けては、高校と管理機関と学年2クラス（2年生からは類型別のコース制をとっている）をどうつくるかの協議を重ねている。以下は、これまで想定してきた普通科探究コースを新名称とする場合に出されたものである。これに加え、2クラスとも地域社会学科へ移行することも想定しながら協議を継続している。

①現行の普通科と同じように2年次での選択とする場合の検討

- ・普通科改革における学科設置の弾力化という観点からこれまでに設置されてきた学科とは異なるイメージを作りたい（これまでの学科にあるような専門科目はない）

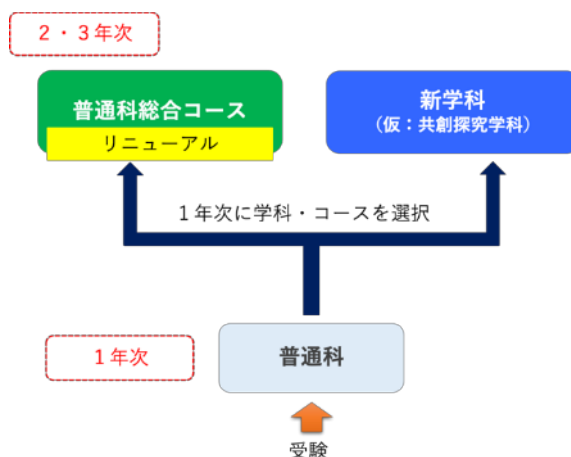
- ・普通科2クラス体制のさらなる魅力を図るために、他の普通科高校にはない本校独自の学科・コース体制とすること（これまでの取り組みがある本校だからこそさらなる魅力的な新学科の実現）

- ・入学後に選択できることでミスマッチを防ぐ（生徒の選択、選択時の十分な支援）

- ・志願段階での1クラスへの偏りを防ぐ

（入学段階では、普通科のニーズとして必ずしも探究コースが多いとは限らない）

- ・受験者の全体層を考えたときに普通科をすべて学科へ転換した時の志願者数への影響



2年次以降の普通科と新学科の相違点

- ・ 取り組む探究プログラム（地域学）などのカリキュラム内容
- ・ 大学進学を想定したカリキュラム構成
（普通科総合コースは、国公立大一般入試への対応は想定していないカリキュラム）
- ・ 想定される（目指す）進路
- ・ 普通教科の開講科目（新学科は国公立大の入試に対応。旧総合コースは私大～就職に対応）
- ・ 学科名については、入学段階で普通科は弱いのではないか？
- ・ 「探究」はどこ的高校でもやっているのではないか？ 同じ探究？？
- ・ 入学段階での学科として加えて現在のようにコースを作ってはどうか？
（グローバルリーダーコース・クリエイティブコース など）

②カリキュラム全体の見直し

- ・ 地域学の増単(より探究活動に重きを置く学科へ)
※理由：大学入試制度の多様化や自ら学ぶ意欲を内発的に醸成する取り組みや仕掛けの強化。
→例：ひなた場、プレゼンのレクチャーなど
- ・ 増単の案→現行のえびの学（1単位）、地域探究活動（2 + 1単位）からの増単

現在実施している地域探究活動（2年2単位、3年1単位）のアップデート

2年	3年
3単位	2単位



1学年必修 えびの学 2単位

1学年のえびの学については、小中高校でカリキュラム再構築を図っているが、実践に向けては高校が先導して行うため、えびの市観光商工課と連携した仕事図鑑の作成を行った。これは、地域の意思ある大人を見える化して2年生以降の探究活動における協働を円滑に進めていくことに加え、地域の魅力ある大人を広く発信する意味もある。



③学びの往還に向けた職員研修

昨年度実施した調査をもとに学びの往還に向けた職員研修を実施。地域社会学科で身に付けた力、探究活動との往還を意識しながら以下についてワークショップを行った。

- ・授業における探究的な学びの実践
- ・ICT を活用した探究的な学びの実践
- ・探究活動を柱にした各教科の授業における取り組みの実践



各教科ごとの実践に向けたワーク



教科横断の視点による実践に向けたワーク

・研修会で出された学びの往還に向けた授業デザインの例

学習時期	教科/科目	内容	目指す力
1年1学期	数学、体育	数学で学んだ「1秒で何歩走れるか」の計算をするスキルを、体育の陸上競技で活かす。	問題解決力2
1年2学期	国語 探究	探究で「ジョブシャドウイングの成果をまとめる」。その際、国語で学んだ「自分の意見をスライドでまとめる」を活かす。	プロジェクト力
1年2学期	国語 探究(えびの学)	①10月 探究 インタビューの仕方 講話・準備 ↓ 国語 記事の書き方 ↓ 探究 仕事図鑑の作成(企業ガイド) ②11月 探究 ジョブシャドウイング 発表スライド作成 ↓ 国語 インタビュー・ジョブシャドウイング	コミュニケーション力 情報創造力 プレゼンテーション力 問題解決力 課題発見力

		シンキングツール「共通項と飯野の魅力」	
1年2学期 2年生探究 3年生	保健 フード 数学	1年生2学期で保健「食事と健康」、生活文化科「フード」の授業で知識を学習。数学「統計」の授業を活用して、地域の食事・健康の課題を調査し、探究活動や生活文化科「子ども食堂」に発展させる。	情報創造力 問題解決力 プロジェクト力
1年3学期 2年2学期	保健 地歴 家庭科	歴史総合で学んだ「高度経済成長」の知識を、保健や家庭科で「働き方と健康」を学ぶ際に活かせる。	情報想像力
1年3学期	情報 英語	プログラミング言語を英語の単語と紐付けて学習する	ICT活用能力 情報創造力
1年	数学 家庭科	数学「立体図形」の単元と、被服製作。 立体感覚、展開図の作成	
2年1学期 (普) 3年 (生文)	公民 数学 家庭	消費生活、家庭経済	批判的思考力 問題解決能力
2年2学期	探究 数学 保健	探究テーマとして、保健室に行くのは、何曜日が多いのか、を1年で学んだ数学の統計的を活かす。	問題解決力
2年2学期	論理国語 生物 日本史	「論理国語」の評論「共同性の幻想」において、「自分が見て感じるように他人も見て感じているという感覚は幻想である」ということを学ぶために、「生物」の視点から、「今見ているものはそもそも目の仕組みで正しい向きに修正している、同じ色だと思っていてもその受け取りは脳の仕組みや色を感じる細胞の有無で個人により異なることがある」などの生物学的な説明を入れてもらう。また、共同幻想の社会的な集団としてムラ社会を例として、「日本史」の視点からムラ社会の成り立ちを説明してもらう。	
2年3学期	地理 化学 数学 探究	酸性雨(環境問題) ⇒ pH ⇒ log(対数関数) 原子力 ⇒ 半減期 ⇒ 指数関数	問題解決能力

2年	情報 数学	物理	プログラミングによってシミュレーションする	
2年～3年	古典	家庭	源氏物語を背景。 源氏物語に出てくる食事、衣服を家庭科で再現	
2年～3年	古典	英語	源氏物語の英語訳をもとに、言葉の置き換えから、平安時代の感覚を学んでいく。	
2年～3年	古典	化学	平安時代の明かり（灯明やしそく）を、現代の蛍光灯の明るさと比較し、ルクスをおさえ、当時の見えている風景の違いを体感する。	
2年 3学期	生物 保健体育		環境影響評価(環境アセスメント)について 絶滅危惧種の保護に関しての対策などが保健体育科の授業でも取り扱っている環境問題などと共通している。	問題解決力 課題発見力 批判的思考力
通年	体育	英語	英語科で、「英語で自分の意見や問題解決を提示する」という学習がある。体育球技の作戦タイムと連携させ、英語で話し合いを行わせる。	
通年	英語	家庭	ALT に日本食を作って、英語で紹介する ALT の国の伝統料理等を英語で説明し、実際に作る	コミュニケーション力 プロジェクト力
通年	家庭	理科	肉が軟らかくなるもの（例：はちみつ）の実験と料理での有効利用。	問題解決力
2年	英語 探究	農業	農業従事者に英語でインタビューし、地形の違いでの作物の違いを考える。	コミュニケーション力
全学年 全学科	国語	数学	定義に沿って理論立てて考える。 論理的思考。 AならばBであり、BならばCである。よってAならばCである。	問題解決力
3年	家庭 社会	英語	フェアトレード理解。	問題解決力
生文科 全学年	家庭	数学	エクセル作業の際の関数理解を数学とコラボ 票をグラフにする グラフ（データ）の読み取り 情報処理検定との関連	データ処理能力
全学年 全学科	化学 探究	地理 家庭	台風で倒れる稲とそうでない稲の違い。 台風・・・地理 土壌・・・化学 味の違いー家庭科	

全学年 全学科	地理 数学	時差の計算 緯度・経度の計算 拡大・縮小率	問題解決力 批判的思考力
全学年 全学科	英語 地理 国語	外国人にアピールする霧島連山のキャッチコピーを作成。	
3年	数学 物理 化学	距離・速さ・加速度は微分積分の考え方を利用すると求めることができる。物理で学ぶ公式は数学の考え方とリンクしている。 (波の公式→三角関数など) (pHの公式→常用対数) (星の等級・デシベル→常用対数) (半減期→指数関数)	
1～3年	家庭 公民 保健体育	キーワード「医療と金融教育」 家庭：金融教育 タックスプランニング (給与明細の読み方など) 高額医療費制度・医療費控除 保健：セルフメディケーション 公民科：経済のしくみ 年金のしくみ(年金の種類など) 税金のしくみ(所得税など)	課題発見力
2年	家庭世界史 地理総合 地理探究	食文化 家庭科(フードデザイン) 地歴科：食文化の歴史(気候とかかわりなど)	
1・2年	家庭 他教科全般	生活産業情報：PowerPointを使用したプレゼン スライド作成 他教科、探究：発表スライド作成・依頼文・お礼状(ビジネス文章)作成	情報創造力
全学年 全学科	化学 家庭 地理 歴史 探究	酢豚にパイナップルは必要か？ ・化学でタンパク質や酵素の分野を学ぶ 最適温度など。 ・お肉を柔らかくするためにパイナップルは必要 だけど、温度が高すぎると効果を失う ⇒最後に入れて、余熱ぐらいがベスト ・なぜ酢豚とパイナップルは出会ったのか？ ・パイナップル以外はダメなのか？	問題解決能力 情報創造力

その他のアイデア

統計の取り方 探究×数学 お礼状の書き方 探究×国語 陸上競技 体育×数学
 働き方と健康 保健×社会×家庭科
 食事と健康（子ども食堂） 保健×家庭科×数学×探究
 保健室曜日はいつが多い？ 探究×数学×保健室 など

以上のようなアイデアを地域社会学科における新たな学びのあり方の参考としながら、学校全体の学びを全職員でデザインする機会を今後も作り、本事業の柱である学びの往還に向けて次年度は実践をしていきたい。

(2)新探究科目の開発実践

①新たな探究の学校設定科目グローバル共創探究（仮称）の開設に向けての試行

・ 現行の地域探究活動をアップデートする内容として以下のことを試行している。

月	単元	活動
4	オリエンテーション	①地域探究活動についての概要を聞く。 ②先輩の事例について知る。 ③Jamboard を使い、この活動を通して身につける力をクラス全員で考える。
4	地域の＋－	①Jamboard を使い、この地域における自分たちなりのプラスマイナスをグループで考え、できるだけ多く出す。 ②それぞれの要素から伸ばすもの、課題解決に向けたアイデアを100コを目指してひたすら出すワークを行う
4	＋－プロジェクトテーマを考える	①グループで出した地域のプラスとマイナスを使ってプロジェクトを作る。その際、なぜ、そのプロジェクトにして、どんな効果があるかも考えてみる。 ②作成したもののプレゼン発表・振り返り
4	リフレクション	グループでのリフレクションについて ①取り組んだ内容の確認 ②その日の目標達成度の確認 ③プロジェクトの進捗状況 ④プロジェクト内での振り返り内容や情報の共有 ⑤次までに取り組むこと ⑥その日の自分の学び
5	自分の関心事を知る	WILL NEED を考えるワーク
5	プロジェクトを立ち上げよう	①前回までのワークで考えたキーワード ②こうだったらと思う作りたい未来

		<ul style="list-style-type: none"> ③どうにかしなければと思う「気になる課題」 ④チームづくり ⑤プロジェクト決定に向けた対話 ⑥探究に取り組む理由 ⑦プロジェクトチームで大事にすること
6	超探究の日 (越境学習)	<ul style="list-style-type: none"> ①3人のゲストによるトークセッション ②ゲストとの対話 ③リフレクション(プロジェクトをどう進めていくか)
6	実践に向けた調査活動及び企画書とは?	<ul style="list-style-type: none"> ①実践に向けた調査活動計画 ②同様のテーマに関する国内外の事例調査(WEB) ③共創サポーターへのインタビュー・フィールドワーク計画 ④調査活動を通じて感じたこと、考えたこと ⑤海外の事例も参考にした実践企画案を考えてみる ⑥実践に向けた役割分担
6	プロジェクト実践に向けた調査計画	<ul style="list-style-type: none"> ①プロジェクトを進めていく上で必要なことの書き出し ②プロジェクトを深めていく上での問い
6	フィールドワークに向けた活動計画 (超探究の日に向けて)	計画表を作成する
7	3年生によるポスターセッション	3年生のプロジェクト活動について聞き、今後の活動における参考とする
7	調査活動のまとめ →実践に向けて	フィールドワーク(現地での調査活動)やインタビューなどでの結果をまとめる
7	超探究の日	<ul style="list-style-type: none"> ①事前ワーク ②計画にしたがって実践 ③事後ワーク
9	プロジェクト活動 ～	各プロジェクトによるフィールドワーク、関係者へのインタビュー調査、関係機関との調整、実践に向けた企画等
11	ひなた場	<ul style="list-style-type: none"> ①事前講座 ②人生グラフ・人生紙芝居の作成 ③市内の中学生への講師役でこれまでの自分自身や取り組みについてアウトプット
12	中間報告会	スライドを作成して現状報告
1 2 3	プロジェクト活動	各プロジェクトによるフィールドワーク、関係者へのインタビュー調査、関係機関との調整、実践に向けた企画等

②超探究の日の実践

・目的

普通科改革事業で進めている新科目の探究カリキュラムの一つとして、生徒が集中して探究活動に終日取り組む日とする。これは、探究的な学びをさらに深め、教科での学びにつなぐマインドを作り、思考をより深める機会とする。また、これまで取り組んでいる地域探究活動で柱としている”実践”が土日に集中することが多く、地域をはじめとする事業者との連携においても円滑な連携や加速させ、学びの機会をより多く創出させることを目的とする。

・内容

国内外で活躍する講師のレクチャー及び対話

プロジェクト活動を時間の制約なく取り組む（これまでできなかったことが可能になる）

※平日にしか空いていない官公庁、事業所、学校での実践が可能に



国内外でこれまでにない視点で活躍する講師陣

外部講師による様々な学びやワークショップ・ 探究プロジェクトに終日取り組み、普段得られない学び



1日のプログラム事例

	探究コース2年	探究コース3年
午前	探究ワークショップ ※県内外の先駆者と学ぶ	プロジェクト活動
午後	フィールドワーク	

・探究ワークショップについては以下の講師を招聘

※講師は3年生のサポーターも務める

信岡良亮 氏（株式会社アスノオト代表取締役 さとのば大学

※Forbes JAPAN「NEXT100 世界を救う希望100人」)

長友まさみ 氏（サンワード・ラボ株式会社 代表取締役社長）

杉本恭佑 氏（合同会社ヤッチャ代表）

日時 6月7日(水) 8:50~16:35

対象 普通科探究コース

実施計画

探究コース2年

	内容	教室	ファシリ	サポート
8:50 ~9:40	アイスブレイク ※4~5人 → 9グループ	教室	梅北	
9:50 ~12:40	講師による特別講座 ①講師によるトーク(15分プレゼン) ・今、何をしている人? ・高校のとき、何をしていた? ・今にたどり着くまで、どうフェーズが変わってきたか? ②全体トーク(10分) ※①②を3回繰り返す ③3グループに分かれて深く聞いてみたい講師に25分 ④全体トーク(感想の共有) ※適宜10分間の休憩を挟む	教室	信岡 長友 杉本	梅北 竹本 CN
13:40 ~15:00	対話によるプロジェクト深化 ①ワールドカフェ テーマ「ワクワクする探究とは？」 ・午前の講座から考えるプロジェクト ・講師を交えた対話	図書 室	信岡 長友 杉本	
15:10 ~16: 20	プロジェクト実践に向けた計画書作成 ①ワークシートに沿ってチームごとに作成 ②次回以降のフィールドワークなどのアポどり	多目 的ホ ール	梅北 担任 副担	竹本 CN
16:20 ~16: 30	本日のまとめ ①まとめのワーク入力 ②1日の感想共有			

探究コース 3年

	内容	場所	担当	サポート
~9:00	プロジェクトごとの集合 (事前に報告した場所) ※到着したら、Google チャットで報告	各フィールド	担任 副担 ※生徒の状況確認	武井 C N ※校内に残る生徒のサポート
~12:40	プロジェクトごとの実践 ※休憩時に進捗状況を Google チャットで報告			
	休憩			
13:40~15:20	プロジェクトごとの実践 ※休憩時に進捗状況を Google チャットで報告			
15:30~16:30	振り返りワーク ※Google classroom で配信したワークに取り組み提出 ※提出後、Google チャットで終了報告			

活動フィールド一覧

プロジェクト名	活動フィールド
1 教育	飯野中学校 (終日)
2 えびの市魅力化	セズベリーファーム (AM) 京町温泉街 (AM) アウトドアステーション (PM)
3 防災×医療	市役所防災課
4 海外支援プロジェクト	販売@道の駅えびの
5 農業体験	北きりしま田舎物語協議会 飯野地区農場
6 心理	飯野高校 志學館大学とオンライン

7 吉都線活性化	学校・飯野周辺
8 遊びの探究	えびの市観光協会
9 飛虹奇	飯野高校 飯野小学校 (5~6 時間目)
10 アウトドア	尾八重野分校 アウトドアステーション
11 酒粕探究	飯野高校 (生物室)

※各フィールドに3B担任、CN（コーディネーター）で可能な限り巡回を実施

実践後の感想(生徒)

"今回の超探究の日を通して、自分たちの考えや案を見つめ直すいい機会となった。特に、3人の方向性の違いがイメージを具体化できない原因になっていたが、今日のインタビューで抽象的な部分を具体的にでき、輪郭がはっきりした。また、実際に子供たちと関わる上畠さんに話を聞くことで、自分たちの固定概念を払拭できるいい機会になったと思う。これらのことを活かして、自分たちの掴んだイメージ像を形にする作業を頑張りたいと思った。"

今日はフードドライブを行っている橋満里美さんにインタビューをしました。子ども食堂だけでなくフードドライブをやることでのアドバイスを具体的に教えていただき、これから行う上で気をつけるべきことや必ずやるべきことを学びました。インタビューをすることで今まで分からなかったことが分かり、情報収集することができました。次の探究活動でポスターをつくったり、宣伝したり、学校でもフードドライブを行うという活動も増えたので今日の超探究の取り組みはとても良かったです。

今日の超探究の日では企画書を作ることができました。計画書を作ることによってなぜ自分がこの活動を行いたいと思ったのか、この活動を通してどんな未来を作りたいのかなど改めて自分たちの活動を見直すことができました。

大人の人力を借りながらも、メンバー全体の意見について話し合い、したいことや何故それを行いたいと思っているのかを確認することのできる有意義な時間を過ごすことが出来たから。また、これからのアクションを起こす上で必要な考え方の再認識や、すべきことの確認、具体的なイメージを持つことが出来たから。そして、今日の目標をメンバー全体で達成することが出来たから。今日のミーティング内で意見が多く出ないことが課題のひとつだと感じたので質より量を意識して行きたいと思いました。

③越境プログラムの構築に向けた外部との連携

地域をフィールドにした探究活動をさらに深化させるために課題を客観視したり、俯瞰して考える機会をつくることを新たな科目では重視したい。そこで、域外で学ぶ機会の創出に向けて取り組んだ。その試行として外部団体等が主催するプログラムへの参加、地域みらい旅、タイムブスクールなど外部プログラムを活用しながら学びを深化させる取り組みを推進した。

今年度は、県外・海外のプログラムに47名が参加（全校生徒の20%）し、探究コンテストや高校生サミット等へも積極的な参加が見られる。その結果、全国高校生プレゼン甲子園優秀賞、高校生ボランティアアワード全国大会出場、台湾への修学旅行プロデュース大会準優勝による台湾研修など越境した学びが広がっている。これについては、今後関係団体との連携協定を結ぶなどしてより多くの生徒たちが越境体験できる環境を作っていきたい。



越境による学びが次のステップへ



国内外の地域や教育機関と連携し越境（リアルとオンラインのハイブリッド）

今年度は約 **50** 名が実際に県外・海外へ

東京都 大阪府 島根県 広島県 徳島県 三重県
鳥取県 愛媛県 熊本県 インドネシア フィリピン
台湾 インド フィジー アメリカ デンマーク...



全国グローバルリーダーズサミット

本事業で実践共有をはじめ、他校で探究的な学びを実践している高校生や大人が一堂に会する全国グローバルリーダーズサミットを今年度も開催した。様々な地域で学ぶ高校生が一堂に会し、対話をとおして学びあう機会を創っている。今年度は北海道、新潟、茨城、広島、愛媛、長崎などから参加があり、より多様な学び合いを実践できた。本サミットは、観光協会をはじめ様々な団体の協力のもと、生徒実行委員会の企画・運営によるものである。

えびの市にいながら越境体験～各地の高校生とつながる学び～

全国グローバルリーダーズサミット



※仕事図鑑サミットも同時開催

北海道大空高等学校
新潟県立津南中等教育学校
茨城県立那珂湊高等学校
広島県立大崎海星高等学校
愛媛県立三崎高等学校
長崎県立松浦高等学校
宮崎県立高千穂高等学校
宮崎県立飯野高等学校

- ・事例発表
- ・対話のワーク
- ・フィールドワーク

実行委員会による企画・運営



令和6年1月18日（土）～19日（日）

18日（土） 9:30～10:00 オープニング

10:00～12:00 未来カフェ（参加者全体の対話）

13:10～15:10 プロジェクト発表

15:20～17:00 京町フィールドワーク

17:00～18:30 1日のふりかえり 2日目に向けて えびのの旨いもん交流会

19日（日） 8:40～10:30 市内フィールドワーク

8:40～11:45 サミットの学びを対話

11:45～12:00 クロージング

協力・協賛

京町温泉組合旅館組合 えびのヒカリテラス実行委員会 えびの市観光協会

④アウトプットする機会の創出

新たな探究科目では、自らの学びをすべての生徒たちがアウトプットする場を作ることも重視したい。その一つの実践が“ひなた場”である。これは、宮崎県キャリア教育支援センターが行っている教育プログラムで、通常は中学生が大人と対話するものである。本校の場合は、この大人の講師役に高校生をあてて、市内4中学校で実践した。中学生にとって年の近い高校生から学び、キャリアについて考える機会になると同時に、高校生にとってもこれまで自分の取り組んできた探究プロジェクトや今後のキャリアについて言語化してアウトプットできる貴重な機会となっている。

ひなた場とは



「対話」で人と人をつなぐプログラムです。生徒と講師（保護者や先生以外の地域の大人）が互いに人生を語り合い、生徒は自分の理想に近い、お手本となる生き方をする大人を見付けたり、気軽に相談できる関係をつくったりできます。

○ ひなた場の大まかなプログラムは、次のようになります。

自己紹介&人生グラフ紹介

講師と生徒数名でグループをつくり、ワークシートを使ってお互いについて理解し合う。



1対1の対話&人生紙芝居

グループ内で、講師と生徒が1対1で対話を行う。他の生徒は、一時的にグループから離れて、人生紙芝居を聞きに行く。



まとめ

これまでの自分の人生と地域人講師との対話を踏まえて、「将来どんな人になりたいのか」を考える。



中学生の感想

○「全力で」というワードがめっちゃ心に残っている。いろんな話を聞かせてくれて、いろんな考え方を教わったし、みんな自分と向き合っていて私も頑張ろうと思った。

○「とりあえずやってみる」の精神が大事と言っていて、やってからわかることがあるというのを教わった。飯野高校は自分が思っていたより良い学校で一人ひとりに手厚い指導してくれる学校だということがわかった。

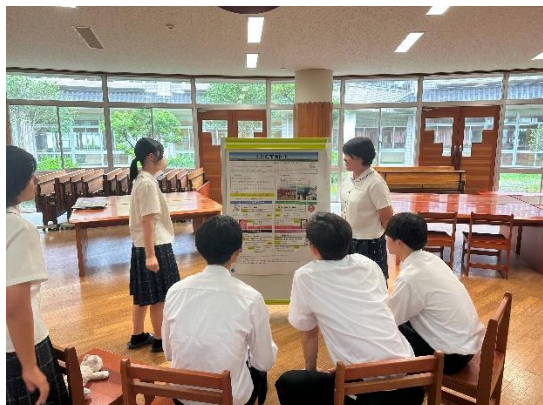
○物事を全力で楽しむと主人公になれる。自分らしさを持っていてすごいなと思った。すごく楽しかった。先輩の話や人生を聴いて楽しそうだったし、参考にしたいなと思った。

○理想の自分とは遠くても全力で取り組むと楽しく過ごすことができる。「周りに合わせているだけじゃつまらない」という言葉を聞いて、私も周りに流されてしまうことが多いけど自分を強く思ってこれから過ごして生きたいと思った。



○先輩たちは自分とはまた違う人生を歩んできていて、あまりそういう話を聞く機会がなかったので新鮮でした。飽きずに話とかを聞けて飯野高校生の話す力がすごいなと思った。

この他、探究の時間だけでなく、教科学習、ポスターセッション、グローバル学習成果発表会などアウトプットの機会を創っている。また、対外的なコンテストにも校内で積極的な参加を促しており今年度も多くの実績を出している。グローバル学習成果発表会では、地域の関係者をはじめ、市内の中学2年生と小学6年生の参加もあり地域の小中学生に本校の学びを発信する良机となった。



普通科探究コースによるポスターセッション



グローバル学習成果発表会



全国高校生ボランティアアワード全国大会

R5 その他の受賞実績

- ・みやぎき 4R コンテスト 優秀賞
- ・全国高校生マイプロジェクトアワード 宮崎 summit 特別賞
- ・わけもんの主張西諸大会 優秀賞



台湾への修学旅行プロデュース大会 優勝R1 準優勝R2・5!!

⑤今年度のプロジェクト事例

試行を通して、越境しながら学び地域で実践をするプロジェクト事例が出ている。
 以下は、その取り組み事例である。

グローバル・プロジェクト

1 なぜ地域×海外なのか？

宮崎県立飯野高等学校 普通科探究コース3年 上原・梅北

- ①地域の方々に世界の問題について考えてもらうきっかけ作りをしたい。
- ②地域だけではなく、海外の方々も笑顔にしたい

もともとあった2つの活動をコラボさせてみた

2 研究仮説

- 内戦国イエメン産のコーヒーを販売
- イエメンの方々に仕事ができる
 - イエメンの方々が自立できる
 - 内戦後もイエメンの経済が回る

- バリ島のゴミからアクセサリーを制作
- バリ島をはじめの世界の環境をよくする
 - 購入者にも喜んでほしい

⇒ **SDGsの第一歩に？！**

私たちの活動を地域にPRする

- 世界の問題について関心を持ってもらう

3 調査活動

- ・イエメンの講話を受講
- ・バリ島研修
- ・全国高校生まちづくりサミット2022 inのむら
- ・SRサミット
- ・マイプロジェクトin宮崎



マイプロジェクト
特別賞受賞！



4 実践

自分たちの活動を地域の方々に向けてPR

アクション① イエメンのコーヒー販売 & 活動PR

活動のきっかけ

「世界一危険な国」としてイエメンを知った

目標

イエメンの方々のために何かしたい

実践

内戦後もイエメンの経済が回るきっかけに？！

- ・イエメンの**世界最古のコーヒー文化**に注目！
- ・イエメン支援とコーヒー販売もしている会社と協力
- ・その会社からイエメン産コーヒーも購入
- ・そのコーヒーも道の駅えびので販売！！
- ・販売利益もイエメンへ寄付



Next Action

- ～サミットでの発表～
- ・愛媛県や京都府で開催されたサミットで発表
- ↓ **ブラッシュアップ**
- ～自分の地域で～
- ・子供たち向けワークショップ開催
- ・道の駅でアクセサリー販売



アクション② 9日間のバリ島研修

活動のきっかけ

・タイガーマップが2022年5月8日より開始した【**海外インターンシップ**】

目的

・海外に興味があり世界の問題解決のお手伝いがしたい

実践

ごみから商品開発？！

- ・現地を視察
- ・観光地なのにゴミが沢山という現状を知る...
- ・ごみからできるプレスレットを手作り
- ・インドネシアでの販売 (完売！！！)



5 実践後の課題と成果

- ・コーヒーも売ることだけにフォーカスしていた(値段が高いという声が多かった)
- 購入者が「買いたい」と思える活動のPRとちょうど良い価格設定も涉及する必要がある(購入者にもフォーカス)
- ・ローカルとグローバルを繋げることができた！

6 今後の展望

- ・えびの子供たちにも世界の問題について知ってもらうワークショップも開催する
- 子ども食堂に来る子供たちのための画もサポート



えびの市活性化 ～特産物開発プロジェクト～

宮崎県立飯野高等学校 普通科探究コース3年 福井姫華 木野葵 松坂琉依

1 なぜえびの市活性化なのか？（探究テーマ設定理由）

地域の方々と協力しえびの市を知ってもらおう！
→知ってもらうためにえびの市といえば!!という特産物を作りたい！

2 研究仮説

えびの市の年々の人口減少が続いている
↓
えびの市には京町温泉やえびの高原などの魅力豊富な場所がある
↓
魅力を知ってもらうために特産物作り、町の宣伝をする
↓
インターネットを中心に使うことで、若者にも発信できるのではないかと

4 実践

えびの市＝特産物が少ない、魅力的な場所があまり知られてない

→特産物を作っちゃおう!!PR動画を作っちゃおう!!


3 調査活動



※コトバンク「えびの市」より

※GO FREAK!「えびの市の人口と世帯」より

アクション① いちご農家さんとコラボ



SEN's Berry Farm
「けずりいちご」を開発

Vision いちごもえびの市特産物に!!

TASK

- ・ロゴ作成
- ・値段設定
- ・特産申請書
- ・試作・試食
- ・容器について
- ・チラシ作り
- ・飾り付け
- ・後画面のデザイン
- ・ブラックボード作成

Action

- ①いちご農家さんと話し合い
- ②試作・試食
- ③販売(道の駅)

リピーターが増えた!

アクション② みなほ会さんとコラボ

みなほ会
「甘恋ラテ、甘恋プリン」を開発

Vision えびの市の特産物甘恋も広める!!

TASK

- ・ロゴ作成
- ・値段設定
- ・試作・試食
- ・チラシ作り
- ・飾り付け

Action

- ①みなほ会の皆さんと話し合い
- ②試作・試食
- ③販売(二日市)

売り切れるほど人気に!

アクション③ 京町PR動画

PR動画
みなほ会のインスタに投稿

Vision 温泉郷のいいところも広める!

TASK

- ・PRする場所に訪問
- ・実際に温泉街に宿泊
- ・動画作成についての講座
- ・みなほ会のインスタに投稿

Action

- ①動画作成についての講座
- ②動画作り
- ③インスタに投稿

アクション④ 新企画に挑戦

アウトドアステーション
フラッペを販売&ボランティア

Vision 市内の人たちに広めたい!!

TASK

- ・商品開発
- ・値段設定
- ・試作・試食
- ・ポスター作り

Action

- ①アウトドアさんと話し合い
- ②試作・試食
- ③販売(予定)

5 実践後の課題

- ・宣伝方法が少なく、客層に限りがあった
- ・みなほ会のインスタのアカウントを広めればよかった
- ・オーナーとの意思疎通がうまくいかない場面があった

6 成果と今後の展望

- ・どちらの商品もリピーターが多く、期間限定ではなく通常販売をして欲しいという声が多かった
- ・道の駅や京町二日市で販売したことによって、県外からくるお客さんにえびの市を知ってもらえる機会になり、地域活性化につながった
- ・今まで行ってきた探求で身に着けた経験を活かし、新企画を成功させたい



昔！世界!の遊び体験会～ノーメディアに向けて～ 教育イノベーションプロジェクト

宮崎県立飯野高等学校 普通科探究コース3年

瀬戸口 赤崎 鈴木 下牟田 竹内

(探究テーマ設定理由)

現在、小学生の生活がメディア化して多くのメリット・デメリットが生まれている。

メリット

- ・多くの知識を得れる
- ・世界中の人と関わりを持つ。

デメリット

- ・コミュニケーション能力の低下
- ・運動能力の低下

- ・ノーメディアに触れさせたい
- ・デメリットの改善

日本、世界
伝統遊び

2 研究仮説

- ・日常がメディア化した子供にアナログ型の遊びを体験させたら、遊びの種類がかわるのではないかな？
- ・友達と協力する体験会を通じることでコミュニケーションをとるきっかけになるのではないかな？
- ・未知の遊びを知ることで視点の拡大があるのではないかな？

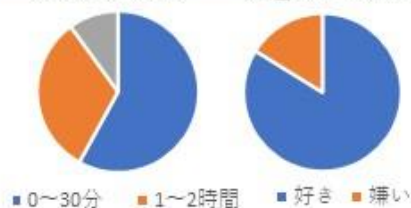
4 質の高い教育を
みんなに



3 調査活動

- ①飯野小学校の児童・保護者にアンケートを取る
- ②日本の伝統遊びを調べ、実際に作る
- ③世界の伝統遊びを現地に行き、体験する

スマホ使用時間 外遊びについて



■ 3～4時間

- ・スマホの使用時間が1時間以上の方が4割に上った
- ・外遊びを好きな人は8割近くいた

準備

- ①メンバーが青少年交流団として韓国に行き、韓国の伝統遊びを体験してきた。



韓国にもメンコがあるという発見も！

- ②放課後の時間をつかい、伝統遊びの探究を行った。



自分たちで作成・体験
ルール作り

4 実践

～アクション1～

飯野小学生に輪ゴム鉄砲、
メンコ体験
12月21日 in飯野小学校



【反省】

- ・昔の遊びに興味を持った。
 - ・自由なルールが良い
- 良い手ごたえ！

～アクション2～

えびのの小学生に輪ゴム鉄砲
世界の遊び
3月26日 in真幸



【反省】

- ・輪ゴム鉄砲が人気
 - ・小学生には難しい遊びがある
- 次に反省

更なる効果
作成へ

～アクション3～

飯野小学生に輪ゴム鉄砲
世界の遊び
7月9日 in飯野



【反省】

- ・作成をとおして、アナログを感じさせた
- ・自分達で思考する行動を見ることができた。

5 考察

- ・「昔」ということで新鮮さが出て、受け入れられた。
- ・、メンコ、輪ゴム鉄砲のように自分達で作成し、改善等が行えるため、頭を使いながら夢中に遊べた。
- ・アナログに触れ合うことで、デジタルデトックスを行う事ができる。

5 実践後の課題

- ・遊び自体は、予想通り新感覚としてのしんでくれた。
- ・相手が小学生という事で、安全かつ簡単にすることをもう少し考える必要がある
- ・「楽しかった」で終わらないように、更なるアクションが必要。

6 今後の展望

現在デジタル化が行われている小学生に『アナログとの両立』に繋がる。
作成を行うことで、自分で試行錯誤する能力を養う事に繋がる。

教育支援プロジェクト

飯野高校3年 林田
内村
森高

～子供たちの可能性を広げる～

1. なぜこのテーマにしたのか

① 将来の夢に近づく

→探究活動を通して自分達の夢である教師に近づくための知識と経験を培う。

② 子供たちに新しい学びを

→高校生が子供たちに関わることによって新しい学びを与える。



2. 研究仮説

・小学生と一緒に学習することで、コミュニケーション力や将来の夢の実現に必要な教える力を身につけることができるのではないか。

・小学生が大学生や高校生と交流することで勉強に対する苦手意識をなくせるのではないか。

調査結果より、勉強が苦手な子、
意欲が落ちる子約87%
→勉強が好きになってもらいた
い!



3. 実践

～子どもの権利条約～

- 子供の権利条約宮崎の会に
高校生代表として参加しました!
- ①自分たちのこれまでの活動を発表し、栄えりくださった皆さんから良いリアクションをもらいました!
 - ②今の学校の現状について率直な意見を出し、深の合いました!

権利条約 宮崎の



超探究で飯野中へ!

ジョブシャドウイングで先生方と1日一緒に過ごしました。
 <ここで学んだこと>
 ①さまざまな授業の仕組み
 ②子供たちとの向き合い方
 実際には色々な先生方の授業を受けてみることで新しい発見が!
 教師という仕事について深く感じる事ができた1日でした。

☆飯野クラブ☆

私たちのメイン活動です。

- 2年春 活動開始! 計画中心...
- 2年夏 初実践!!
- ↓
- 課題が多く出ました...
- ↓
- 3年春 反省を生かし再挑戦!
大学生やメディアも
巻き込み大成功!!
- ↓
- 3年夏 地区の小学校から市内
5つの小学校に規模を
拡大し最大の挑戦...!
- 反省・改善を繰り返しながら
今後も頑張っていきます!



フィリピン支援

アクション①支援先決定&打合せ
 ②募金
 ③実行

現地では...

- ①SERVIUMの子たちに折り鶴を教える
- ②文房具、生理用品、日用品の買い出し
- ③実行!!

実行してみても

- ・相手Needsをしっかりと理解する。
- ・計画をきちんと立てる。
- などの課題が見つかったけれど、与えるだけの支援ではなくしっかりとフィリピンの文化などを学べた。

4. 実践後の課題と今後の展望

連続して参加して下さった子供たちが回数を重ねるごとに自ら進んで勉強してくれてこの活動の効果を確かでき、勉強の意欲が上がっていると思った。
 コミュニケーション力、子供たちに勉強を教える力、実行力などの力を向上させることができた。
 また南九大生と一緒に活動することで子供たちとの接し方や学習会の進め方などを学べた。
 今後は夏休みの学習会などを引き続き行います! 4

1 負担を
なくそう



4 質の高い教育を
みんなに



⑥地域社会学科設置による他学科への波及効果の具体例

・生活文化科の生徒たちによる有志のプロジェクトの立ち上げ

※全国高校生ボランティアアワード全国大会への出場（2年連続）

→地域社会学科を想定している普通科探究コースの取り組みを参考にプロジェクトの立ち上げ



RESCROとは

- ・ファッションロス削減
- ・生活文化科有志団体



再資源化される衣類を増やす



CO2削減



リメイク × つながり(人)

活動計画案



- ①市内の福祉施設を対象とした実態調査
- ②実態調査をもとにリメイク品の試作開始!
- ③完成後、各施設に寄贈
- ④各福祉施設による活動評価
- ⑤生徒を対象とした不要になった衣類の回収
- ⑥集めた衣類を用いてのリメイク講習会
- ⑦リメイク講習会にて作成した品を市内の公共施設へ寄贈

具体的活動内容①

市内の福祉施設にアンケート
にご協力いただく

※保育所3か所、高齢者福祉施設1か所

アンケート内容

- Q1.リメイクについて知っているか
Q2.不要になった衣類を使ってのリメイクに賛成か
Q3.不要な衣類を使って作ってほしいものはあるか



アンケート結果

アンケートにお答えいただいた全ての施設
がリメイクに対して好印象を持っている
ことが分かった!

欲しいもののリスト



- ・給食用エプロン
- ・防災頭巾
- ・雑巾
- ・コースター
- ・布おもちゃ
- ・ままごとバック etc..

色染め

サイズ調整

製作期間約1カ月!

リメイクした品々

不要なTシャツなど

保育園

サイズ感ピッタリ

エプロン寄贈 着かた教室



高齢者福祉施設

同時に交流会も行いました

花瓶用コースター



具体的活動内容②

生徒を対象に不要になった
スポンを回収する

回収BOX → **約20枚を回収**

校内リメイク講習会開催

数人の生徒が参加！

シューズ入れの作り方

1. ウエスト部分から寸足すつ
8.5CM下の所に線を引く
2. 線を引いた部分
をカットする (両足)
3. 裏返す
4. ②の片端部を縫
ぎ縫いしろ1cm
5. 縫をつける
裏地の作り方は別紙
を参照ください
6. 裏にひっくり
返して完成！

できた！

市内の体育館へ

シューズバック寄贈

僕たちが作りました！

掲示物も充実！

よくできてる！

**早速利用して
いただきました！**

活動の反省

- **報連相**の徹底
- **100%**リメイク

活動の総括

・衣類の**有効活用、活用方法を広める**ことができた！



・全ての活動で**不要な衣類を通じて人とのつながり**を作ることができた。



今後の展望

活動②の幅を広げた
リメイク講座を開催

動画の作成

世界的なリメイク意識
の向上へつなげる



この他の事例

- ・新学科・普通科・生活文化科の特徴を活かした学科横断プロジェクトの取り組み
※これまでの事例 今を創る、未来を変えるライブ@愛媛県立三崎高校 への参加
- ・普通科・生活文化科の生徒による新学科の生徒による探究プログラムへの参画
※イエメン支援隊（イエメンへの産業支援に向けたイエメン産コーヒーの販売）
探究プロジェクトにおけるサポート（生活文化科のスキルを活かした実験）

(3)連携企業との協議・意見交換

新科目グローバル共創探究のプログラムづくりの一環で以下の企業と協議・意見交換を行った。

○タイガーマーブ株式会社

社会課題を学ぶプログラムについて意見交換および新科目にもつながる海外研修プログラムの構築について協議を行った。この中でインドネシア、インドにおける社会課題について考えるプログラムを8～9月に実施し、本校からも3名の生徒が参加した。

○合同会社レンケツ

新科目に向けて、どのような連携ができるか意見交換を行った。これまでも吉都線活性化プロジェクトで連携しているが、これを市内だけでなくどう波及させて行くか新たなプログラム作りについて協議を行った。

(4) 連携機関・団体との意見交換・協議

新たな新科目の中で新たなコンテンツを作成するためのヒントを得るため本校が連携、加盟している団体やグループとの意見交換および協議を行った。

- 1 現在取り組む地域探究活動をどのように深化させていくことが可能か
- 2 新たなコンテンツの作成に向けて協働できること

以上、3つの観点から話をする中で、今年度の実践および検証について行なってきた。

えびの青年会議所：えびの青年会議所フォーラムの休止→高校生による再開もありうるか

WWL A L ネットワーク会議：九州地区の加盟校による連携プログラム

地産地消くりえいていぶ：プログラミング講座

吉都線に観光列車を呼ぼう小林実行委員会：高校生ローカル鉄道サミットの開催

ヒカリテラス実行委員会：えびのヒカリテラスの高校生企画の実践

えびの市観光商工課：志事図鑑の製作の事業化

(5)地域・教育魅力化コーディネーターの配置

今年度より2名を校内に配置し、校内組織の中で教員と協働する業務構築を進めていった。以下は、今年度のコーディネーターの活動内容である。

**地域・教育魅力化
コーディネーター配置**

IINO high school
Iino city, sasebo campus

①探究活動における地域とのコーディネート
②探究活動におけるサポート
③生徒募集にかかる広報活動

宮崎大学 中山隆氏
(運営指導委員・元隠岐島前高校CN)
研修・共同研究

竹本CN
・本校普通科探究コース卒業
・宮崎産業経営大学卒
※在学中は高校時から進めていた研究活動でオランダに派遣
・県内の事業所などで勤務後、4月より現職

週4～5日勤務・CN室設置

武井CN
・山形県立米沢興譲館高校卒
・宮崎大学卒
・昨年末までアメリカ留学。
3月よりえびの市地域おこし協力隊に着任し、現職

進路指導部(探究統括部署)への配置
→教員とのコミュニケーション

- ・生徒の実践における地域との調整や準備等の実務
- ・日常の探究活動におけるサポート
- ・生徒の相談対応
※コーディネーター業務については、次のページ以降を参照
- ・研修への参加
- ・カリキュラム開発に係る実践
- ・カリキュラム開発に係るコンテンツの設計サポート
- ・共創パートナーとの意見交換
- ・魅力化コアチーム委員会の運営サポート
- ・進路指導部会(本事業事務局会議)の所属 ※毎週の MTG 参加

また、積極的な研修への参加と宮崎大学特別講師（運営指導委員）の中山隆氏によるコーディネーター研修を行なっている。

※コーディネーターの今年度の取り組みについて

月	学校×地域・探究	広報・学校紹介	生徒面談等
4月	昨年度の志事図鑑をサポーターさんへお渡し（手渡しや郵送） 探究の時間のサポート（毎週水曜） 進路指導部会への参加（毎週水曜）		全国卒委員会への参加 （毎週火曜）
5月		高校パンフレット作成	
6月	超探究の日サポート 2A 探究の時間にえびの市美化センターへの引率	県外からの資料請求の対応・学校見学の対応（随時）	2A 生徒 進路相談→ 自衛隊員の話聞く場 2A 生徒 進路相談
7月	飯野高校魅力化コアチーム委員会参加 飯野小中高こどもサミット 超探究の日サポート 2A LCA で LiZHAIR へ受け入れ交渉	寮見学のフライヤー作成→オープンスクール 中学校への学校説明会のサポート	
8月	2A LCA で丹病院へ受け入れ交渉 LCA 事業所へ資料配布		
9月	ひなた場に向けた準備・伴走、引率 サポーターとの連絡調整	秋の学校説明会	
10月	えびの未来カフェ参加 超探究の日サポート ジョブシャドウイング	コーディネーター室 傍の掲示板上に掲示物作成	3年生面接練習
11月	ひなた場に向けた準備・伴走、引率		3年生面接練習
12月	3A 探究活動合同発表会の引率 飯野高校魅力化コアチーム委員会参加		
1月	グローバル学習成果発表会 全国グローバルリーダーズサミットにおけるサポート		
2月	全国コーディネーター研修における事例発表		
3月	探究活動の実践における支援		

「えびの学」におけるジョブシャドウイングのコーディネート業務

- 6月 各事業所サポーターへの連絡→その後挨拶
- 8月 ジョブシャドウイングの趣意書やアンケート依頼
- 11月 ジョブシャドウイング発表会の参加応募資料作成
- 12月 ジョブシャドウイングサポーターさんへお礼状&発表会資料お渡し

共創パートナーとの連絡調整（9月）

- 9/25、9/26 1年生ジョブシャドウイングと仕事図鑑の生徒組み合わせ作成
- 9/27 仕事図鑑やジョブシャドウイングでの質問事項例作成
- 10/17 ジョブシャドウイングインタビュー練習（1A）

生徒のサポート

- 10/18 ジョブシャドウイング1日目 小林地区の巡回
- 10/19 ジョブシャドウイング2日目 小林地区の巡回
- 10/20 ジョブシャドウイング3日目 校内の講座対応 小林地区巡回

水曜探究の時間の対応（毎週）

ひなた場で使う人生グラフの確認、サポート
2B プロジェクト相談・アポ取の練習や企画書のサポート、相談
2B 探究対応 11/7 中学校に配る資料印刷チェック
2B グループの相談対応 案だしのお手伝い、意見サポート
2B こども食堂組のサポート、案だし手伝い
2B 相談対応 11/14～11/17 相談サポート 12/21～ 探究企画書、ポスター作製対応
2B 相談対応 新たな探究プロジェクトに対する手助け
2B 電話対応の練習、プロジェクトを進める際の物件の内見
3A 9月～LCA実習を終えてから毎週サポート ポスター作製、レポート作成手助け ポスター発表の練習（12/6、12/13、12/20）
3B 探究プロジェクト スプラッシュフェスの企画書、校正
3B 探究プロジェクト イエメンコーヒーの販売について引継ぎ 支援者とのリモートサポート（9/29） 卒業生との相談（11/13）

対面研修

5/14	飯野高校コーディネーター研修（1回目）	講師：宮崎大学 中山氏
7/13、7/14	令和5年度高校コーディネーター研修（島根）	※文科省事業
8/7、8/8	九州伴走者合宿（熊本） 探究に関する研修 ※主催 マイプロ宮崎・熊本事務局	
9/25	飯野高校コーディネーター研修（2回目）	講師：宮崎大学 中山氏
11/21	令和5年度高校コーディネーター研修（福島）	※文科省事業
2/21	令和5年度高校コーディネーター研修（東京）	※文科省事業

オンライン研修

8/22	令和5年度高校コーディネーター研修（オンライン研修①）
9/8	令和5年度高校コーディネーター研修（オンライン研修②）
10/5	令和5年度高校コーディネーター研修（オンライン研修③）
12/11	令和5年度高校コーディネーター研修（オンライン研修④）
1/10	令和5年度高校コーディネーター研修（オンライン研修⑤）

3 探究活動における生徒アンケート

高校魅力化評価システムで3年生を対象に行ったアンケートでは以下のように本校での学びを評価している。※黄色は全国平均より1.0%以上高い 赤色は全国平均より10%以上高い項目

	本校	県	全国
【主体性に関わる学習活動】	62.3%	54.7%	52.4%
5.自主的に調べ物や取材を行う	74.1%	71.9%	72.3%
6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	50.6%	37.5%	32.5%
【協働性に関わる学習活動】	79.8%	69.3%	72.1%
7.グループで協力しながら学習や調べものを行う	87.7%	74.8%	78.1%
8.活動、学習内容について生徒同士で話し合う	86.4%	84.8%	85.1%
13.生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	65.4%	61.5%	64.2%
【探究性に関わる学習活動】	63.0%	63.9%	65.1%
10.自分の考えを文章や図表にまとめる	51.9%	61.2%	64.4%
12.活動、学習のまとめを発表する	74.1%	60.5%	63.0%
【社会性に関わる学習活動】	57.4%	47.4%	48.0%
15.地域の課題の解決方法について考える	70.4%	49.2%	47.2%
16.日本や世界の課題の解決方法について考える	44.4%	47.6%	48.3%
【主体性に関わる学習環境】	92.6%	86.6%	87.1%
20.失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	86.4%	78.6%	79.1%
26.自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	97.5%	90.5%	90.9%
35.周りの大人は、自分に関わることにについて自分で決めることを尊重してくれる	93.8%	89.2%	90.3%
【協働性に関わる学習環境】	84.8%	74.3%	74.7%
22.人と違うことが尊重される雰囲気がある	81.5%	77.4%	80.4%
28.立場や役割を超えて協働する機会がある	91.4%	73.3%	75.8%
30.人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	81.5%	62.5%	63.0%
【探究性に関わる学習環境】	86.4%	80.3%	81.3%
17.本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	85.2%	83.6%	83.3%
18.将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	91.4%	83.3%	83.6%
24.周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	93.8%	87.5%	88.3%
36.生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	75.3%	73.1%	71.4%

【社会性に関わる学習環境】	81.5%	62.0%	62.2%
25.地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	93.8%	76.6%	77.2%
29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	88.9%	56.5%	57.4%
32.自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	79.0%	52.4%	54.6%
34.地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	64.2%	54.8%	54.9%
【主体性に関わる自己認識】	75.5%	71.7%	71.0%
51.自分にはよいところがあると思う	84.0%	81.8%	79.1%
52.私は、自分自身に満足している	61.7%	55.9%	57.2%
39.現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	72.8%	79.2%	76.2%
40.目標を設定し、確実に行動することができる	72.8%	66.8%	65.6%
37.うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	81.5%	79.3%	78.1%
47.忍耐強く物事に取り組むことができる	80.2%	72.8%	73.6%
【協働性に関わる自己認識】	82.1%	79.4%	78.2%
43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	95.1%	94.6%	93.3%
42.相手の意見を丁寧に聞くことができる	97.5%	90.5%	89.6%
49.自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	70.4%	72.3%	70.0%
44.共同作業だと、自分の力が発揮できる	65.4%	73.7%	70.3%
【探究性に関わる自己認識】	74.5%	73.6%	71.8%
38.家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	74.1%	76.6%	73.3%
61.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	65.4%	52.9%	50.5%
67.学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	90.1%	80.8%	81.5%
45.情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる	84.0%	84.8%	84.2%
46.勉強したものを実際に応用してみる	72.8%	74.4%	70.7%
41.複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	48.1%	55.9%	52.4%
54.一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	80.2%	82.2%	82.9%
48.自分を客観的に理解することができる	81.5%	81.5%	78.7%

【社会性に関わる自己認識】	70.6%	66.9%	64.3%
65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	49.4%	52.4%	47.6%
56.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	77.8%	68.0%	62.2%
58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	81.5%	70.8%	68.0%
57.私に関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない	53.1%	54.9%	52.7%
62.地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある	79.0%	72.8%	72.0%
55.18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	82.7%	82.6%	82.5%
64.将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	77.8%	76.1%	74.0%
63.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	44.4%	45.1%	48.0%
60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	71.6%	63.9%	58.3%
68.自分の将来について明るい希望を持っている	88.9%	77.8%	75.4%
【主体性に関わる行動】	72.2%	71.2%	69.6%
71.授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした	80.2%	80.2%	76.3%
74.授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	64.2%	62.2%	62.9%
【協働性に関わる行動】	84.0%	76.9%	72.3%
72.自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	84.0%	75.3%	72.1%
73.友人などから、意見やアドバイスを求められた	84.0%	78.4%	72.6%
【探究性に関わる行動】	61.1%	69.0%	66.8%
75.授業の内容について、「なぜそうなるのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	64.2%	72.1%	69.0%
76.公式やきまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした	58.0%	66.0%	64.6%
【社会性に関わる行動】	59.9%	40.3%	32.4%
69.いま住んでいる地域の行事に参加した	59.3%	37.2%	33.0%
70.地域社会などでボランティア活動に参加した	60.5%	36.7%	25.1%
【学習・その他】	85.2%	64.5%	67.5%
90.この学校を中学生にすすめることができる	85.2%	77.1%	76.3%

【主体性に関わるウェルビーイング】	65.1%	62.8%	61.4%
81.今の生活全般の満足度	72.5%	72.6%	68.9%
82.普段のあなたの幸福度	72.5%	71.1%	68.5%
83.現在の日常生活に不安や心配事がない	50.6%	44.7%	46.8%
【協働性に関わるウェルビーイング】	90.9%	83.0%	83.7%
66.この学校に入ってよかったと思う	88.9%	85.6%	86.2%
84.学校の一員だと感じている	91.4%	85.1%	85.6%
85.大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	92.6%	78.2%	79.4%
【探究性に関わるウェルビーイング】	90.9%	82.2%	79.9%
68.自分の将来について明るい希望を持っている	88.9%	77.8%	75.4%
86.自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたい）を持っている	95.1%	85.1%	82.3%
87.自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	88.9%	83.8%	82.0%
【社会性に関わるウェルビーイング】	70.1%	62.5%	59.4%
58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	81.5%	70.8%	68.0%
60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	71.6%	63.9%	58.3%
88.この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	66.7%	70.9%	69.9%
89.日本の将来は明るいと思う	60.5%	44.4%	41.5%

以上のことから、自己評価ではあるものの各項目において全国平均を上回る数値が出ている。これは、これまでの事業における取組を評価できる一方で、下回る項目もあることから、事業最終年度となる次年度は、下回っている項目について取り組みを強化していきたい。

4 視察・事業の普及

視察・研修

【青翔開智中学校・高等学校】

まず、こちらの取り組みで着目したことが探究のゴールは1万字の修了論文となっていることであった。青翔開智の教育の基盤にあるのは、探究活動で参観した普通教科の授業が探究に接続する内容となっていた。教科と探究の学びの往還を進めている本校にとって非常に参考となるものであった。例えば、中1から高3まで週2時間（高1は週3時間）が探究基礎に充ててあるが、そこに必要なスキルは教科の授業で育成していく。国語で論文に必要な文の書き方、数学で統計の基礎、英語で1枚の絵から英作文する力など教科の学びが生きるものとなっていた。この学びがキャリアにもつなげる仕掛けがあり「ブロックチェーン技術を用いてガーナ固有の流通形態を高度化することは可能か」をテーマに企業とシステム開発をした生徒が東京大学の推薦入試への合格、「人がリラックスできる光環境を自然光で再現することは可能か」をテーマに電機メーカーからデータを提供してもらって研究した生徒が、京都工芸繊維大学のダヴィンチ入試（総合型選抜）で合格するなど進路にもつなげてあることが本校にとっても大いに参考になるものであった。



昨年度より以下の学校、団体が本校の視察・研修に来校した。その際、現在取り組んでいる事業について研修を行っている。

大阪大学 宮崎大学 兵庫教育大学院 福岡県立小倉商業高等学校 鹿児島県立霧島高等学校
北九州市立高等学校 内閣府 地域・教育魅力化プラットフォーム 長崎県立島原翔南高等学校
宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 熊本県立岱志高等学校 鹿児島県立薩摩中央高等学校 鹿児島県
立古仁屋高等学校 佐賀県立神崎高等学校 佐賀県立唐津西高等学校 株式会社E D O 東京都
立多摩高等学校 鹿児島県立種子島中央高等学校 青森学院大学 岡山県立矢掛高等学校 佐賀
県立白石高等学校 三重県立昂学園高等学校 和歌山県立串本古座高等学校 広島県立御影高等
学校 北海道当別高等学校 鹿児島県立喜界高等学校 鹿児島県立川辺高等学校 別府大学 島
根大学

また、以下の高校などの研修会で本校の事例について話をする機会があり事業普及につながる機会を得た。

三重県立白山高等学校職員研修会 三重県立飯南高等学校職員研修会 中小企業同友会県北支部
研修会 北九州市立大学主催高校教員向け研修会 WWL研究会 別府大学 マイプロジェクト
勉強会 えびの市立真幸中学校 九州伴走者合宿 えびの市民大学 北海道鹿追高等学校 こば
やし熱中小学校 熊本県立岱志高等学校 一般社団法人 KIISA 中華医事科技大学

この他、探究活動に関するメディアの取材もあり本事業の普及にもつながる機会となった。
宮崎日日新聞 テレビ宮崎 宮崎放送 中日新聞

新聞掲載記事

「京町甘恋」プリン、ラテ 食べに来て

えびの米で甘酒スイーツ

みなほ会、飯野高生 共同開発



えびの市の京町・吉田・加久藤東の女校でつくられた「京町甘恋」プリン、ラテ、甘酒スイーツの共同開発プロジェクトが、地元産のえびの米を原料とした甘酒スイーツを開発した。「京町甘恋」プリンと「京町甘恋」ラテは、甘酒と抹茶の組み合わせが特徴。後はの土産品として年度内販売開始を目指し、観光PRにもつなげたい考えだ。

プリンとラテの主な原料は、同市産のヒカリの玄米甘酒と豆乳、抹茶、ゼラチンで固めたりはほんのりとした甘さには仕上げた。甘酒の性質が良い。ホトトギスラテは豆乳のまろやかさが引き立ち、甘酒や抹茶が苦手でも飲みやすいという。

SDGsは持続可能な開発目標。SDGsは持続可能な開発目標。SDGsは持続可能な開発目標。

本年度内販売開始を目指す

「京町甘恋」プリン、ラテ、甘酒スイーツの共同開発プロジェクトが、地元産のえびの米を原料とした甘酒スイーツを開発した。「京町甘恋」プリンと「京町甘恋」ラテは、甘酒と抹茶の組み合わせが特徴。後はの土産品として年度内販売開始を目指し、観光PRにもつなげたい考えだ。

教師志望、「指導」経験に

小学生の宿題 教える 飯野高生



えびの市の飯野高で28日、春休みに合わせて生徒が企画した小学生向けの勉強会が開かれた。同校生徒や卒業生で九州大入団卒業生など、飯野高生も講師となり、宿題などの学習を指導。児童の学力向上をサポートするだけでなく、教師を目指す高生も、指導経験を通して成長の場となった。

企画したのは飯野高普通科1、2年生計4人のグループ。勉強会は昨年の夏休みに続き2回目、今回初めて大学が加わった。共同で取り組むのは、飯野高生が企画した小学生向けの勉強会。

「分かりやすく楽しい」

めくら効果を狙って、囲気を含ませたタート、児童は休み時間の宿題に取り組み、国語や算数で分からなかった問題を個別に教えてもらっていた。

1時間終了し、4年生の吉岡未希さん10は「教える方がやまらぬ。楽しかった。勉強が楽しくなってきた。来年も実施予定で受け付けてほしい」と話した。

飯野高生が企画した小学生向けの勉強会

SDGsは持続可能な開発目標。SDGsは持続可能な開発目標。

「全国高校生プレゼン甲子園」

飯野高チーム優秀賞



SDGsは持続可能な開発目標。SDGsは持続可能な開発目標。

「空き家活用、農業PR提案」

飯野高チームは、空き家活用と農業PRをテーマにした「空き家活用、農業PR提案」をテーマにしたプレゼンテーションで、全国高校生プレゼン甲子園で優秀賞に輝いた。

同甲子園の決勝大会は、8月に福井市であり、予選を意味する「Well-being」をテーマとした10チームのプレゼンテーションを、地域社

（チーム3人まで）が「持続的な幸せ」をテーマにした農業の魅力発信など、自分たちの活動を基にしたアイデアを発表。論理性や伝わりやすさなどを審査され、最優秀賞に次ぐ優秀賞（3チーム）に選ばれた。

大会前にはオンラインで夜中まで話し合うこともあったという。「それぞれの考えを持ち時間の5分までまとめるのが大変だったが、頑張った良かった」と、メンバーの一人、後藤に託したい。次は「トップ」を願っている。（菅野健太）

温泉水で水鉄砲合戦

まちおこしへ飯野高生企画



えびの市・飯野高の生徒が企画したまちおこしイベント「えびの市スプラッシュ」が、17日同市の京

町温泉駅前広場であった。地元の温泉水を使った水鉄砲合戦をチーム対抗で繰り広げ、にぎわいづくりに温泉水のPRに一役買った。

1チーム6人編成で、金魚すくいを使う「ボイ」を頭に付けて水鉄砲を撃ち合い、ボイを破った数を競う。小学生や高校生、地域住民らでつくる9チームが、リーグ戦で対戦。温泉水を使った水鉄砲合戦を繰り広げた「えびのスプラッシュ」。

水の入った水鉄砲が果敢に攻めたり、ボイを守るように逃げ回ったり、歓声や笑い声が上々だった。

上位チームにはえびの米などの賞品が贈られたほか、参加者全員に温泉入浴券が配られた。

同イベントは2019年に1回目を行って以来、コロナ禍で開催を断念してきた。実行委員長で同校3年の鈴木祥太さん（18）は「多くの人が集まりにぎわった様子を見て、やっつ良かったと感じた。後輩たちには来年以降も続けてほしいと話していた。（菅野健太）」



野村節郎農相から感謝状を受けた谷津通斗さん(左)、足立英加(左から2人目)、梓侏奈さん(同4人目)、川口丘前、農林水産省

G7農相会合提言に野村農相 本県高校生へ感謝状

宮崎市で4月に開かれた先進7カ国首脳会合(G7サミット)宮崎農相会合で、各国大臣を前に食と農業に関する提言を発表した「高校生」の提言プロジェクトチーム14校20人から感謝状が贈られた。野村節郎農相は「提言を多くの人に広めたい。世界で活躍できる人になるのが目標」と、岩倉君は「友人らに農業のことを伝えるのが役目と話していた。一行は同日、県庁も訪れ、河野知事を表敬した。(寺原達也)★フジみやにも掲

探究成果分かりやすく 宮崎北高が5校合同発表

宮崎市・宮崎北高(免東「瀬町」)が参加。各校は週雅史校長、924人)は、同市のひなた武道館で県内4校と合同探究活動発表会を21日開いた。生徒計約850人が参加し、地域の課題解決などをテーマに研究した成果を紹介した。宮崎北高が毎年主催し3回目を迎えた。今回は宮崎第一(同市)、延岡(延岡市)、飯野高(えひの市)、五ヶ瀬中等教育学校(五ヶ瀬市)の4校と合同発表会を行った。発表は1枚の紙に写真やグラフを載せ、「ポスターセッション」形式で行い、約150点が並べられた。

飯野高3年の中村茉優、上野真奈美、堀口ななさん(いずれも18)は保育園「不登校支援」をテーマにした。学校教育の課題を意見交換する本年度の宮崎市総合教育会議は22日、市役所であった。清山知憲市長や永山英也副市長、西田幸一郎教育長のほか教育委員4人、市の関係職員らが出席。不登校児童生徒への支援をテーマに協議した。写真

で美習中、伝言ゲームを通じて園児のコミュニケーション能力を伸ばせたと報告。発表後、苦勞した点など他校の生徒から寄せられた質問に答えた。中村さんは「課題解決に向け行動する大切さを学べた。さらに要点をまとめて発表できるように工夫していく」と話した。

多様なテーマ授業考察

えきの市・飯野高(光神宣三校長、229人)の生徒グループが、LGBTQな性的少数者への理解を深めるべく、小学生向けの授業のシナリオを考案した。知識を教えるのではなく、多様性を受け入れる感覚を身に付けることがポイントで、小学校で授業の実践を始めており、これから活用する場を拡げていきたいと考えた。(菅野健太)



「理解を深める授業のシナリオを作成した飯野高生グループ「飛虹奇」」

小学生向けに飯野高生

グループは、同校の「地域探究活動」の中で性的少数者について研究する「飛虹奇」。普通科探究コースの3年生4人、2年生2人の計6人が所属している。これまで、ジェンダーレスをテーマに中学生と語り合ふ企画や、性差のない制服導入に向けた活動を展開。中学生に比べてLGBTQな基礎知識がない小学生にもアプローチしようと授業のシナリオ作成を進め、地域の小学校教諭の意見も参考に完成させた。

「理解を深める授業のシナリオを作成した飯野高生グループ」

「飛虹奇」は、LGBTQな性的少数者への理解を深めるべく、小学生向けの授業のシナリオを考案した。知識を教えるのではなく、多様性を受け入れる感覚を身に付けることがポイントで、小学校で授業の実践を始めており、これから活用する場を拡げていきたいと考えた。(菅野健太)

に組み合わせてもらい、理由を尋ねるなどし、多様な価値観や考えがあることを感じてもらおう。身の回りの「男女で違うもの」などについても考え、最終的に「無意識の偏見」に気付かせる。あえてLGBTQな言葉は使わない。「知識を得る前に、潜在的な部分で多様性を認め合う感覚を身に付けてほしいから、グループのリーダーは狙いを語る。授業は小学校で実践済み。今後は2年生が活動を引き継ぎ、内容をブラッシュアップすると思う。今重さんは「高校生の間で同じような取り組みが広がり、差別のない社会の実現につながればうれし」と願っている。

「男だから」「女だから」偏見なくして



「男の子のランドセルは青色じゃなくてもいい気しない?」「女の子がスポンをばいもいいよね」

えひの市・飯野小の5年生の3クラスで11月中旬に行われた、飯野高の授業グループ「飛虹奇」(6人)の授業。グループ「飛虹奇」では、外見が男性のイラストにはスポン、女性にはスカートの組み合わせを提案児童が目立った。高校生が「逆にしたらどう?」と聞くと、「変だよ」の声も。冒頭の言葉投げかけた。

その後、児童は身の回りにある男女の違いを考え、「あった方がいい区別」「なくてもいい区別」に分けていく。「なくてもいい」には髪型

飯野小で授業実践

や服装、名前、性格、話し方などが次々と挙げられた。「みんなも私も、気付かないうちに男性だから、女性だからという偏見を心の中につくっているかも」。最後は高生のメッセージで締めくくられた。徳福希さん(17)は「男性が化粧するのはおかしい、とか思っていた。分けちゃいけないって、今は思わなくて話した。」「反応が良かった。伝えたいことは伝えられたかな」と同グループ3年の山下日菜さん(17)。2年の黒木陽依利さん(17)は「他の小学校でも実践し、一人一人が過しやすい環境づくりを目指したい」と先を見据えた。

「男だから」「女だから」偏見なくして

仲間や地域住民とともに、牛舎のリノベーションに取り組み大石初音さん（右から2人目）＝いずれも宮崎県えびの市の市内で



県外生受け入れ 地域みらい留学

全国の公立高校で、道府県外からの入学者を受け入れる「地域みらい留学」が広がっている。2018年に13道府県34校で始まり、本年度は34道府県119校まで増加。約1800人の高校生が親元を離れて学んでいる。一般財団法人「地域・教育魅力化プラットフォーム」（島根県）が合同説明会などの仕組みを運営。生徒の減少で存続が危ぶまれている高校が、自治体の支援を受けて参加する。生徒の争奪戦ともいえる状況も生まれる中、成功事例とされる宮崎県えびの市の県立飯野高校を訪ねた。（宮崎厚志）

県立飯野高校の挑戦
（宮崎県えびの市）

高校存続へ 官民で支援

地域みらい留学の先駆けとなったのは、島根県海士町の隠岐島前高校。2010年に町が「島留学」制度を始め、地域と高校をつなぐコーディネーターの雇用、寮や公営塾の整備などを次々と打ち出した。教育と地域の一体的な魅力アップにより関係人口を増やし、持続可能な地域の成功モデルとなった。

生徒募集は争奪戦、

中部9県では三重県2校（飯海、語学園）、静岡県2校（川根、伊豆総合高土肥分校）、長野県1校（白馬）、福井県2校（丸岡、若狭）、石川県2校（能登、七尾東雲）、滋賀県1校（原楽）が参加。各校が特色を打ち出し、1学年2～20人の県外生徒枠を設ける。

ただ、全国に参加校が広がる中で、道府県外からの生徒募集は争奪戦の色が濃くなってきた。募集枠に対して入学者が十分に集まらない事例も多くあり、ある参加校の校長は「探究学習の取り組みや地域との良好な関係をアピールしていることで、興味を持ってはもらえるが、住環境や立地などでシビアに判断されているのでは」と推測した。

主体的生徒 地元へ刺激

「探究学習を促進するようには、教育の仕事に就きたいし、えびのにも関わりたい」とい



校門前に看板を設置し探究学習による実績を市民にアピール



探究学習の成果をPRする大石初音さん

愛知 三重からも

のどかな田舎地帯から霧島連山を望むえびの市。市内唯一の公立高校である飯野高校は、昨年度に文部科学省が進める「新時代に対応した高等学校改革推進事業」の対象に選ばれた。地域みらい留学への参加は4年目で現在は約100人の県外生を受け入れ、普通科探究コースの生徒で、三重県名張市出身の大石初音さん（17）もその一人。現在は東京・神奈川、愛知からの県外生、さらに地元出身の仲間5人とともに、築80年以上の牛舎を「ワーキングスペース」に作り替えるプロジェクトを進行中だ。

市費投入疑問も

全国多くの自治体と同様、えびの市も運営が少子高齢化に直面し、飯野高校も経費合算が取り沙汰されてきた。高校がなくなれば、少子化は加速する。2010年には市長を会長とする「飯野高校を存続させる市民の会」が発足し、官民挙げての支援が始まった。本年度は公営塾の運営や男女別寮の整備、地域と高校をつなぐ「コーディネーター」を地域おこし協力隊の枠で雇用するなど、4千万円以上の市費を計上した。

一方で、「いずれ出て行く県外の子供も、地元の子にお金を使ってほしい」という意見は、議会でも根強い。それでも市議の道田塚文美さん（47）は「えびのでっかい子たちは、将来も関わり続けてほしいはず」と期待。留学生がもたらす人への波及効果はすでに数値に表れないものの、「地元の子たちへの刺激も大きい。すぐ良い投資」と力を込めた。

そんな大人たちの思いをくみ取るかのように、大石さんは言った。「将来は東北先生のように、探究学習を促進するようには、教育の仕事に就きたいし、えびのにも関わりたい」とい